



No.38

2025年3月14日 発行

JR東労組新幹線協議会

発行責任者 近藤 隆行

幹本申13号

東北新幹線で相次いでいる輸送障害に対する徹底した原因究明と、再発防止に向けての対策実施を求める緊急申し入れを提出！！

1. 新幹線運行に関わる安全を脅かす事象が頻発していることについて、下記の事象の原因を明らかにすること。

①2024年11月8日に発生した19B列車のパンタグラフスリ板破損について

②2025年2月19日に発生した53B列車のパンタグラフスリ板破損について

③2025年2月19日に発生した57B列車の台車表示について

2. これらの事象を踏まえた職場の声を把握し、課題を明らかにすると共に職場の不安等を解消すること

2025年3月6日11時30分頃、東北新幹線 上野～大宮間において3021B列車(Z7+H3編成)が列車分離し緊急停止するという極めて重大な事象が発生しました。今回の列車分離に対して運輸安全委員会は、鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる「重大インシデント」であると認定しました。幸いにもお客さまや乗務員にケガなどはありませんでしたが、走行中に列車分離する事象は脱線や衝突の恐れもあり、JR東労組は死傷事故につながる重大な事象と認識しています。

この間、東北新幹線では2024年11月8日に東北新幹線 くりこま高原～一ノ関間でパンタグラフスリ板の破損による運転見合わせ。本年2月19日にも宇都宮～那須塩原間で同様にパンタグラフスリ板の破損による運転見合わせ。同日、新白河～郡山駅間では台車表示灯点灯による運転見合わせと、大規模輸送障害を連続発生させています。この状況下で東北本部長は謝罪会見で「偶発的に2件たまたま重なったと思う」と述べました。またもや「たまたま」と会見したことに対し、現場からは「またか」「事故・事象を重く受け止めているとは思えない」「現場感覚と大きく乖離がある」と怒りと不信・疑念の声が上がっています。

新幹線の安全の再確立をつくり出すためには、「稼ぐ」ことにこだわる風土ではなく、「徹底した原因究明に基づく対策」を打ち出せる職場風土の構築が重要です。新幹線の安全が危機的状況であることを労使で受け止め、責任追及や運行優先の体質から原因究明への安全文化を確立し安全第一の企業としなければなりません。

重大事故・事象が相次いでいることに対し、労使が強い危機感を持ち、新幹線の安全を再確立するために、会社に申し入れを行いました。

安全・安心、そして信頼を取り戻すために職場からの声を集約します。
意見をお聞かせください。